

究極の免疫力 —薬師による 免疫病治療法の新時代の到来=



日本免疫病治療研究会会長

生命エネルギー医学会代表

西原研究所 所長

西原 克成 先生

本日は、講演のお招きにあずかりまして、
ありがとうございます。

ここ宝塚の地のこのホテルには、私が大学を卒業した41年前のちょうど今頃来たことがございます。それから41年の間に、随分日本の国力も変わりましたし、国民の健康状態も変わって参りました。そして今、西洋医学ではほとんどの免疫病を根治的に治すことができなくなっています。これは免疫学自体がそ

の当時より大きく変質したためです。病気とは無縁の「自己・非自己の免疫論」というのが完成したのが今から20年前です。これは主として移植医学の問題であります。他人の臓器を移植したときにどうなるかという問題を免疫力と間違えてしまいました。こうして世界中で誤解のもとに行われている医学によって、西洋医学が瀕死の状態になっています。ところがそれまでの医学は、まさに順調に進んでいました。昭和40年頃に日和見感染というのがございました。これは、自分の持っている腸内、あるいは喉、その他の常在菌が何らかの形で感染すると病気になるというものであります。現在世界中で困っている免疫病は実は全部これなのです。

そして、現代医学の中にはエネルギーが入っておりません。エネルギーとは何かということがほとんどわからなくなっているわけです。これはキリスト教西洋医学の大きな特徴であります。エネルギーは、質量のない物

究極の免疫力

薬師による新しい免疫病治療法の時代の到来

第44回ホノミ漢方会全国大会
2006年 4月13日(木)



免疫
究極
の
力



質、実体のあるものです。20世紀のサイエンスでは、質量のある物質と質量のないエネルギーは、ある極限状態で等価になるわけでありまして、これで原子力が利用できるようになつたわけであります。ところが、現実の医学・生命科学ではほとんど例外的にしかエネルギーを使っておりません。例えば放射線医学では、癌細胞と正常細胞を壊すというネガティブ、マイナスの意味でエネルギーを使つてゐるわけであります。どうしてこのようになつてしまつたかと言いますと、西洋医学では、質量のない物質、エネルギーによる現象がすべて神業かみわざになっているということでありまして、重力作用ですら否定しています。キリストの昇天というものがありますが、それらもすべて神の領域として、架空の物語としているわけであります。

しかし重力作用は非常に大きなものでありまして、エコノミー症候群は重力作用で死ぬわけです。ですから生活の中で6時間睡眠を続けている人は、健康は諦めてください。6時間の睡眠で健康を保とうというのは超能力を追求するようなものです。何故エコノミー症候群で死ぬのでしょうか？これは、我々人類が立ち上がって活動したり、座って生活するからです。これが何に影響するかというと、すべて血圧に影響するのです。イヌやネコは立っても座っても高さが10cmか20cmしか違ひませんから、イヌやネコの血圧は、常に92～93から88mmHgぐらいです。人類も、立ち上がっているときも座っているときも寝ているときも常に、脳の血圧がイヌやネコと同じ90mmHgが理想です。ところが人類は、立っているときは心臓部で130mmHg、座ったときは110mmHgなければ脳で90mmHgは保つことができません。そして眠ったときには全身が90mmHgになるのが理想です。そしてこの血圧をコントロールしているのがどこかと言いますと、頸動脈洞エラというところです。これは実はサメの時代の鰓のシステムで、ここ

で血圧をコントロールしているのです。

かつて分子生物学が非常に盛んであった時代がありました。今はその時代も終わり、分析がほとんどコンピュータでできるようになったために、分子生物学はテクニシャンの行う領域に入りました。この分子生物学には重力作用が一切入つておりません。我々哺乳動物は地球の1Gの重力のもとで生きていますが、立ち上るとほぼ2G受ける勘定になり、それで寿命が縮みます。そして遠心力を使って3Gになると、寿命が極端に縮み、7Gでは1日生きていられません。超音速ジェット機をマッハ1～2で急上昇させると7Gかかりますが、5分後には失神します。これは重力作用によって血液が巡らなくなるからという単純なことで寿命が縮むのです。ですからエコノミー症候群では座つて死んでしまうわけです。ところが分子生物学の世界では、1万Gでも10万Gでも生きています。ブラウン運動で動くほど微小な世界では地球の重力は一切感知しないのです。しかしそういうところで研究したものは我々哺乳動物には利用できません。そういう時代が来ています。基本的なDNAの反応や構造など微小な世界を解析、解明する時期には非常に有効であった分子生物学も、今やほとんど無意味だという時代になっています。

そこでどうしたら良いか？これからは西洋医学に欠けているエネルギーに着目してください。エネルギーさえ理解して、エネルギー代謝に目覚め、そして有効な薬を使えば、まさにこのホノミ漢方会のような形でこれから本当の医学ができるわけあります。今の現代医学では、医者は免疫病を治すことができません。しかし医者でなくても私の言うとおりにエネルギーを制御すれば、誰でも治すことができます。

そこで、エネルギーとは何か？ まず一番重要なのは太陽エネルギーです。これがなけ

れば一瞬たりとも高等生命体は生きていけません。次に大事なのが、今言いました重力作用です。睡眠は、眠らなくても骨休めを8時間取れば問題はありません。眠らなくても良いですから忙しい人は寝そべって仕事をすれば良いのです。あるいは風呂に入ってナポレオンのように仕事をすれば良いのです。重力作用をキャンセルすれば良いだけのことです。

そしてもう一つ、今日本が危機的状況に陥っているのが「冷たいもの中毒」です。4℃のビールを飲む人は、健康は諦めてください。エイジングも諦めてください。どんどん年を取ります。宇宙の中で一番熱容量の大きなものは水です。その水を4℃から36℃に温めるために多くの日本人が命を使っているのです。最後にどうなるのでしょうか？それがこれからお見せする進行性筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、失明です。何故こういうことが起こるかと言いますと、腸の温度が1℃下がると、自動的にパイエル板のM細胞から白血球の中に大量に腸内の常在菌、つまり自分の持っている黴菌やウイルスが入るようになっているのです。これはサメの時代からできているシステムで、冷血動物は体中に黴菌とウイルスが共存しています。そして我々の体の中にもミトコンドリアという太古の時代の好気性バクテリアが共存しています。ということは、生命の長い歴史の中で、ある状況が整えば黴菌はまったくフリーパスで血液内や細胞内に入るようにできているのです。

その状況の一つが、低体温です。体温が36℃以下になった人はやはり健康は諦めてください。今、アイスクリームで多くの子供が脳炎を起こしています。脳に腸の黴菌をかかえた白血球が行くだけで脳炎になるのです。

そしてもう一つ重要なことは、哺乳動物の内で人類だけにしかできないことは何でしょう？それは口で呼吸をすることです。一般的の哺乳動物はすべて鼻でしか呼吸ができません。鼻腔と気管が後鼻孔でつながっているの

です。ところが人類は話すことによって600万年前頃から喉の部分が縮小し、鼻腔と気管が離れてしゃべりやすくなったために、口での呼吸が可能になりました。

呼吸は生命の中で一番大切なものですから、睡眠中も常に保障され、気道が確保されています。多くの動物は鼻からしか声が出ません。ウマやブタは鼻が動きませんから音が変えられずに、いつも同じヒヒーンとかブーブーという音しか出ません。それを吠えたりしゃべったりというように口から声を出そうすると、後鼻孔にはまり込んでいる喉頭蓋をいちいち外すのですが、これが大変なのです。人類は600万年前頃からことばを習得したために、しゃべる時に口で呼吸ができるようになりました。これによって多くのお年寄りが肺炎、間質性肺炎になっています。今治療法がないと言われていますが、これは簡単に治せるのです。鼻呼吸にするだけで治すことができます。ただそれには装置が必要で、鼻を高くするノーズリフトというものと、眠るときに大人のおしゃぶりを入れて唇を塞いで眠るということが必要ですが、それだけで劇的に良くなります。

そして、今ほとんどの日本人は冷たいものを飲んでいますから、病気の人はすべて42℃のものを摂ることです。果物も生野菜もダメです。そのようにするだけで、劇的に病状が改善されます。すべて治療法は同じです。ですからこれからは、血行を良くし、体温を高める漢方を使うとともに、生活指導が非常に重要です。どんなに薬を使っても、口で息をしていてはまったく意味がありません。そしてどんなに良い薬でも4℃の水でのんびりおしまいます。そして、どんなに薬をのんでも、じっとして体を動かさない場合には血液がよく巡らないですから、体は元気にならないです。太極拳のように緩やかな呼吸法をすることが大事です。

ですからこれからは、睡眠と、食べることと、食べるものの温度と、それから呼吸法として鼻呼吸をすることです。睡眠も、寝相が非常に重要で、寝相が悪いだけで病気になります。そして、ここまでを把握した上できちんと病人に生活習慣を正すよう指導をされると、医者ではまったく治せない病気をいとも簡単に治すことができます。また、日本の赤ちゃんには子育ての6つの誤り（資料1参照）があります。私の言うことを聞くと、素人のお母さんでも誰でも、アトピーだらけの子を3日から1週間で玉の肌にできます。びっくりするほど易しいことを、日本中の医者が知らないのです。エネルギーを制御し、微生物を制御することによって治るのです。

口で息をするとどうして微生物が入るかと言いますと、喉の扁桃が冷えるのです。喉も腸の一部ですから、体温より1℃下がると自動的に微生物が入るようにできています。それが脊椎動物の決まりなのです。そして、哺乳動物や鳥類などの高等動物だけが37℃～39℃になると極端に白血球の力が増して、微生物を食い殺すことができるようになるのです。つまり、免疫力には温度依存性があるのです。この事を世界中の西洋医学の医者が知らないのです。ですからSARSの問題や、バイカル湖でアザラシが一度に1万頭死んでしまったという事件がありましたが、これを調べると、

資料1

◎ 6つの誤り

1. 離乳食は2歳以前に与えてはならない。
早く与えると口呼吸と緑便と低体温児になり、病気がちの児になる。
2. おしゃぶりを3～4歳まで与えねばならない。
3. はいはい、おんぶ、だっこ、なめまわしを十分にさせる。
4. 寝相は上向き、おくるみとゆりかごを使う。
5. 手、足、腹、おちは冷たくしてはならない。
常に黄金色の便にする。緑便、褐色便は駄目。
6. 早く立たせてはいけない。乳母車を使う。

ただの人類のインフルエンザウィルスの感染などで大量に死んでいるのです。これはまさに太陽光線を当てないでニワトリを育てたために気温の変化でニワトリがおかしくなりたり、あるいはバイカル湖などの寒いところのアザラシは気温が上がればおかしくなりますし、暑いところのものは下がれば風邪をひきます。それで大量に死んでしまいます。すべて免疫力に温度依存性があることを見落としているだけなのです。温度というのは何でしょう？ これこそまさにエネルギーです。我々は体温を持っています。体温というのは生命エネルギーです。そして心や精神、これもまったく体温と同じ生命エネルギーです。ですから、その生命エネルギーで病気を治すことができます。これが氣功ですが、それよりも、太陽エネルギーのほうが1000倍くらい強いです。そういうことをよく把握していただければものすごい力で病気を治すことができます。

それでは、この「薬師による免疫病治療法の新時代の到来」ということをお話ししたいと思います。

（スライド1参照）

先日、「免疫系と東洋医学」という話をしました。東洋医学とは何でしょうか？ 東洋医学とは象形の医学でありまして、これにはすべて、象形文字として形があります。ここに五臓六腑とありますが、この中で常に問題になるのは三焦というものです。東洋医学の場合形がなければ名前がつかないわけですから、これは大網のことです。大網というのは主として腸管の周りにあるリンパ組織です。もちろん現代医学の東洋医学というのはすべて西洋医学を東洋医学に当てはめていますから、この三焦というのは違う解釈になっていますが、大網には上・中・下と3つありますから、この三焦は紛れもなく大網と考えると

ピッタリ合います。そして、五臓六腑の他には、脳・脊髄神経系と、感覚器官系、皮膚・関節骨格系があるわけです。そしてこの中を皮膚で取り結ぶのが経絡であります。ここには「色即^{シキ}是空、空即^{クウ}是色」と書いていますが、色というのは質量のある物質、肉体や栄養物、その他物体です。空はまさにエネルギーです。エネルギーと質量のある物質が等価であるということを先日話しました。

その前には鍼灸学会からの依頼で、口呼吸がどうして体に悪いのかということで話をしましたが、口呼吸だけ制御しても病気は治せないのです。ですから口呼吸と冷えと骨休め、この3つを制御しないと病気は治りません。どんな薬を使っても、この3つのうちどれか1つが不足したら糸粒体（ミトコンドリア）がダメになるのです。先ほど免疫力には温度依存性があると言いましたが、この免疫力というのはミトコンドリアのエネルギー代謝の力に依存しているわけですから、ミトコンドリアが働かなくなったら全部おしまいです。それには呼吸と咀嚼と睡眠、食べるものの温度が非常に重要であるということを強調しました。

またその前には、伝統鍼灸学会で「からだと精神、五臓六腑とこころ」という話を致しました。「こころ」は紛れもなく、内臓管管系にあるのです。これがどうしてわかるかと

言えば、内臓を移植すると、こころが変わってしまいます。今アメリカでは心臓と肺の同時移植が行われ、移植を受けた人たちが集まって同好会のようなものを作っていますが、移植をすると皆こころが変わってしまうのです。そして色々困ったことが起こるわけです。中国では死刑囚の臓器を抜きとって日本人に売っています。腹黒い死刑囚の臓器をもらえば腹黒い人ができてしまいます。大変なことが今行われています。色情狂の人の臓器を移植すれば色情狂になります。そのように死刑になった人の臓器をもらったら、もらった人はもらわないほうが幸せな人生を送れたということになる恐れがあります。

（スライド2参照）

東洋医学と西洋医学を比較しますと、東洋医学は象形の医学でありますし、例えば形のない「空」というようなものも形として捉えています。それがどうして捉えられるかと言いますと、大脑辺縁系思考、つまり内臓脳思考なのです。内臓脳というのは動物も持っていますが、動物のように考えるということです。第六感とよく言われますが、これはすべて共鳴現象のことです。勘の良い人というのは共鳴するかしないかを感じ取っているわけです。また、総合的で、生命科学の統一理論に則って考えるということが可能なのです。

スライド1

免疫系と東洋医学	
西原 克成	
象形の医学	
日本東洋医学会 第15回埼玉県年会	
大宮ソニックス 2006年3月5日	
口呼吸と冷えと骨休め不足が糸粒体を駄目にする	
全日本鍼灸学会・東京地方会研修会 東京大学 肾門記念講堂 2006年2月12日	

スライド2

東洋医学 と 西洋医学	
象形の医学	還元主義
大脳辺縁系＝大脳古皮質	精神・思考分析の医学
内臓脳思考	大脳新皮質＝体壁脳思考
共鳴現象	第六感
総合的	脳器別
生命科学の統一理論	個別分散
	分裂
	統一理論 なし

ところが西洋医学はとにかく分析的です。そして内臓脳ではなく体壁脳で考え、臓器別でありまして、個別分散、分裂していて統一理論がありません。

これ(※)は分子生物学の端緒を作ったシューレーディンガーの「生命とは何か」という本であります、この人は波動力学の体系を立てたにも拘らず、まさにできた分子生物学にはエネルギーが完全に欠如しています。そのことに未だに気付かないで、世界中の医科大学で分子生物学が行われています。

(スライド3参照)

今日の西洋医学は、とにかく闇雲の医学であります。「自己・非自己の免疫学」は組織免疫でありまして、移植の免疫です。これがまさに勘違い医学であります。

質量のない物質、エネルギーで病気が起こるのです。これがセリエのストレス学説であります。つまり寒いだけで病気が起きるのです。暑いだけで熱中症で死にます。これはミトコンドリアがやられるのです。西洋医学ではミトコンドリアについて個別に非常に詳しく研究されて、レーニンジャーが集大成しておりますが、体の総体の中にこれがどのような働きをしているかについては今日に至るまで誰一人深く考えていないのです。今私がそれについて盛んにまとめているところであり

ます。

セリエのストレス学説では、エネルギーによって病気が起きるということを明らかにしました。そうしてこのエネルギー代謝にはすべてミトコンドリアが関与しています。95%はミトコンドリアが関与していて、残りの5%は解糖系ですが、この解糖でできたピルビン酸はミトコンドリアが使うですから、そういう意味では100%ミトコンドリアに依存しているということが言えるわけです。

そしてステロイドホルモンというのも、まさにこの副腎皮質細胞のミトコンドリアで合成されます。そして標的器官も全細胞のミトコンドリアなのです。ステロイドホルモンにはミネラルコルチコイドとグルココルチコイドがありますが、その前駆物質が甘草に含まれるグリチルリチンのようなものです。そして抗生物質というのは、黴菌を殺すのと同じように、すべてミトコンドリアの機能を停止させます。抗細菌剤と免疫抑制剤、免疫抑制剤の大半はこのバクテリアではなくて真核生物、我々の蛋白質造成を阻害する種類の抗生物質であります。ですからこれを使えば必ず死に至るのであります。

(スライド4参照)

西洋の臓器別医学を東洋思想で再編するとどうなるかと言いますと、臓器にはこれだけ

スライド3

今日の西洋医学 やみくも 闇雲の医学



自己非自己の免疫学 LeDoiran 組織免疫

自己免疫疾患 勘違い医学

ストレスとは何か? ストレスで起きる病気 Selyeのストレス学説

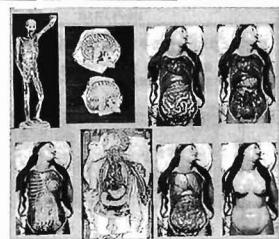
ステロイド療法とは何か? 抗生物質療法とは何か? 抗細菌剤と免疫抑制剤

スライド4

西洋の臓器別医学を東洋思想で再編する

- 1) エネルギーで病気が起こる
- 2) 栄養失調で病気が起こる
- 3) 寄生体（虫・原虫・細菌・マイコプラズマ・ウィルス）

- 1) 五臓
- 2) 六腑
- 3) 脳・脊髄神経系
・末梢神経
・自律神経系
- 4) 感覚器官系
- 5) 皮膚・骨格
・筋肉・関節
・細網内皮系



しかありません。そして東洋医学では先ほど言いましたように、きちんと五臓、六腑、脳・脊髄神経系、感覚器官系、皮膚・骨格というように分類し、これらが互いに密接不可分に連繋して働くというように考えています。ところが西洋医学ではこれらを全部ばらばらの器官として対等のオルガンとして扱っていて、器官の相関性については考慮していません。

そして、東洋思想で統一的に考えていくと、病気の原因には主として3つしかありません。まず、エネルギーで起こる病気です。それから脚気、あるいは壊血病のような、ビタミン等の栄養不足などで起こる病気です。そしてもう一つは寄生体の感染です。

栄養で起こる病気ということによく糖尿病を思い浮かべますが、実はこれは栄養で起こ

るのではありません。バクテリアやマイコプラズマが脾臓に巣くってランゲルハンス島の中のミトコンドリアの機能をダメになると糖尿病になるだけなのです。ちなみに目が糖尿病でやられるのは、白血球がその黴菌を抱えて体中を巡るとその黴菌で目がやられて網膜症になるですから、私の方法で治すと糖尿病が治ると目も当然見えるようになります。

この他に病気の原因として強いて言うと、臓器移植の不適合と、毒物があります。

(スライド5参照)

今、寄生体で病気が起こると言いましたが、その寄生体の大半がウィルスと原核生物の細菌類と真核生物のカビ、真菌類と寄生虫の回虫やサナダムシ類です。これらには大きな隔たりがあります。

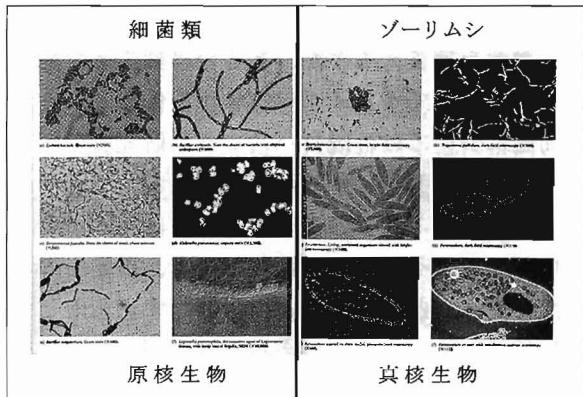
(スライド6参照)

これは大腸菌ですが、原核生物はこのように非常にシンプルな形をしていまして、大きさも小さいです。実はミトコンドリアも真核生物に18億年前から共生している原核生物の一種なのです。

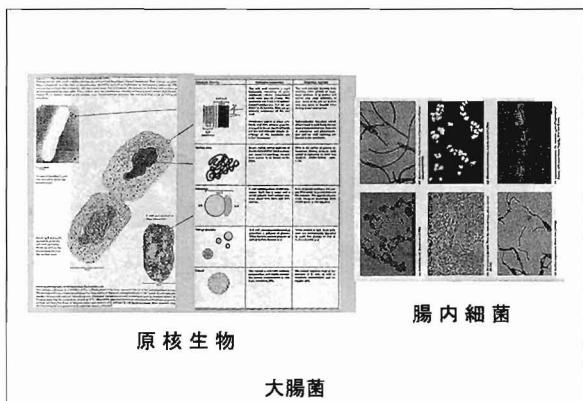
(スライド7参照)

それに対して真核生物は大きさも大きくて、原核生物の黴菌と同じミトコンドリアが哺乳

スライド5



スライド6



スライド7



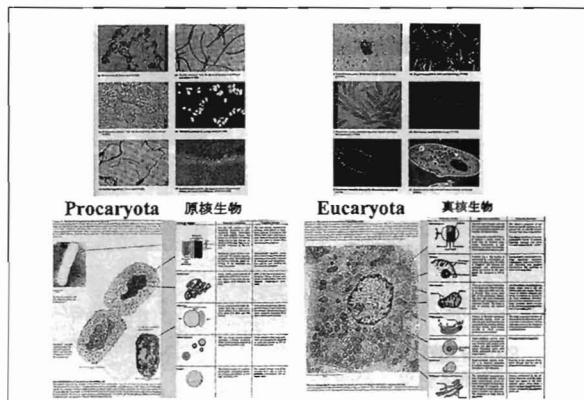
動物では800から3000入っています。これは何を意味するでしょう？ミトコンドリアが細胞呼吸を担当するわけです。真核生物の酵母のような原始的な生物は、哺乳動物細胞に比べて非常にミトコンドリアが少ないので。哺乳動物細胞のエネルギー代謝、酸素による代謝が酵母等の原始型に比べてだいたい300倍から1000倍活性化しているということを意味しています。哺乳動物はすべて真核生物の集まつものであります。我々はこの細胞が60兆個集まって成体を形成しています。

(スライド8参照)

原核生物と真核生物が互いに共生し、仲良く生きているのがこのミトコンドリアと哺乳動物の細胞です。冷血動物は細胞内に黴菌やウィルスが共生しています。哺乳動物や恒温動物はミトコンドリア以外が共生すると細胞が変調を来します。体温が下がると冷血動物と同様になります。ですから体温が少しでも下がるとどんどんこういった黴菌が入ってきます。

そうして入ってきてまったく哺乳動物にとって問題のない黴菌があります。それがビフィズス菌です。ビフィズス菌であればどんなに入ってきたても大した障害は起こしません。ですから腸の中をビフィズスできちんとしておくと良いわけです。

スライド8



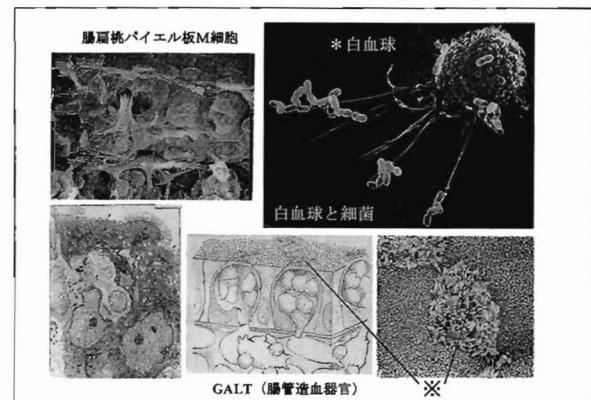
(スライド9参照)

哺乳動物の白血球の黴菌の捕らえ方には2種類あります。これ(*資料右上)は、白血球がこのような形で黴菌を捕まえます。もう一つは、Gut Associated Lymphoid Tissue (GALT: 腸管造血器官) というのがあります。これがパイエル板のM細胞であります、この中に未分化間葉細胞をたくさん抱えています。そしてここ(※)に毛が生えた捕らえ口がありますが、黴菌、あるいはプリオンなどもここから入ります。そして捕まえた黴菌を未分化間葉細胞に渡すとこれが顆粒球に変わります。つまり黴菌が遺伝子の引き金を引くのです。そして腸の中ではもう一つ、脂肪がどんどん乳糜管から吸収されて、この未分化間葉細胞に渡されます。これがリンパ球に変わり、リンパ球は脂肪を抱えてリンパ管を巡って胸管から心臓へと行くわけです。

(スライド10参照)

黴菌を捕まえるとか、あるいは捕まえた黴菌を消化してイムノグロブリンを作るという問題については、既にパストール研究所のメチニコフが100年前に言っておりまして、それに対してドイツのエーリッヒはイムノグロブリンこそがまさに鍵と鍵穴で、重要なのだということを言っていたわけです。しかし、1910年前後に2人の唱える学説が同じ免疫系

スライド9



の異なる二面であり、ともに正しいのだということで二人同時にノーベル賞を授与されています。

(スライド11参照)

そして近代の病気の歴史を見ますと、コッホ、パストール、メチニコフ、エールリッヒ、北里らの研究によって、細菌とウィルスによる伝染病治療法としてワクチン・抗血清・抗毒素療法が生まれ、そして血清学ができたのです。これが100年前です。その頃は脚気や壊血病がわが国で多発し、ビタミンの存在すらわからない時代でした。ビタミンはその後に発見されました。

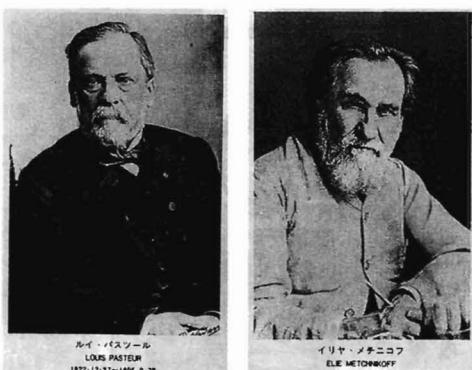
その後、モナコの王子とフランスの学者がアナフィラキシーを発見してノーベル賞を受賞しています。その後に、伝染病の馬の血清やウサギの血清を用いる治療法で発生した血清病でアレルギーが見つかったわけです。アレルギーは馬やウサギの血清療法による血清病が発端で発見されたのです。アレルギーはあくまでも異種蛋白で起こる反応なのです。アナフィラキシーは一種の毒物や毒性蛋白質で起こる反応です。そしてこの頃に抗生物質が見つかって感染症が克服されたかに見えたわけです。

その後、セリエのストレス学説によってエネルギー（質量のない物質）で病気が起こる

ということがわかりました。やがてメダワーの免疫寛容が出て、その後バーネットのクローン選択説——これはエールリッヒの免疫についてをクローン選択説で言ったものです。この実質的な構造を決めたのが、エーデルマンのベンス・ジョーンズ・プロテインです。これは患者の名前で、ベンス・ジョーンズという人がウィルス性の骨髄腫を発症した時に、同じ種類の免疫蛋白質が骨髄で大量に産生されました。これで構造の解析ができるようになりました。免疫蛋白質のアミノ酸配列をすべて読み取って立体模型を作り、鍵と鍵穴の構造を解明しました。

その後に出てきたのが、今日の混乱を引き起こしたル・ドワランの移植免疫医学です。これはウズラとヒヨコの神経堤を、胎生期、つまり卵が孵る前の時期に移植したらくつき、そしてウズラの頭を持ったヒヨコができ、それがやがて白血球に攻撃されて死んでしまって大騒ぎになりました。病気と関係のない移植免疫の話です。それを病気に敷衍したために、まったくわけのわからない免疫学ができてしまって、免疫病を自己免疫疾患と言うようになったのです。しかしこんなおかしなことがあったら、脊椎動物6億年の歴史はありません。これは、彼らの言うところの「自分の細胞に自分の白血球が攻撃を加えている」のではなくて、知らない間に微生物が体

スライド10



スライド11

近代の病気の歴史

1. A 疾病の時代
 - コッホ、パストール、メチニコフ、エールリッヒ、北里
 - ⇒細菌とウィルスによる伝染病治療法
 - ⇒ワクチン、抗血清、抗毒素⇒血清学
- B 脚 気、壊 血 病 — ビタミン不足
2. アナフィラキシー
3. アレルギー(血清病)
4. 抗生物質と感染症
5. セリエのストレス学説 — エネルギー
6. メダワー (免疫寛容)
7. バーネット (クローン選択説)
8. エーデルマン (ベンスジョーンズ蛋白・抗体の構造解明)
9. ル・ドワラン 移植医学 — 自己・非自己の免疫学
10. わけの分らない免疫病(自己免疫疾患)
腸内常在菌による細胞内感染症 (西原)

中の細胞に入って、細胞内感染して汚染された細胞に対して、元気な白血球が攻撃をしているだけなのです。こういう仮説を立てて、汚染源をカットして、冷たいものをやめて、鼻呼吸にして、よく寝るようにすると、全部治すことができるのです。Evidence Based Medicine、証拠に基づいた医学は、治ることが証拠です。これによって解明できたのが、腸内常在菌による細胞内感染症です。これは間違いない事実で検証することができます。とにかく大変な病気が治るのです。

(スライド12参照)

そして病気には、先ほど言いましたように3種類、強いて言いますと5種類あります。

また癌や奇形といったものも、これらが複合しているだけなのです。外傷もエネルギーで起こるわけですから、広い意味ではやはり3つの原因で起こるわけです。エネルギーの障害で起こるのは、ミトコンドリアが直接エネルギーを受けて、エネルギー代謝が障害されるというだけの話なのです。凍傷や熱中症を考えれば、すぐにわかります。

(スライド13参照)

五臓六腑、体壁系の器官というのはこのようになっています。この五臓に微生物がついて病気になるのです。例えば脾臓に腸の微生物が

スライド12

病気	病気の原因
1) 感染症	① 病原性の細菌・ウィルス・原虫などによる感染症 ② 寄生虫の感染症 ③ 外科的感染症 ④ 常在菌等の不類性感染 ⑤ 細胞内感染症
2) 栄養失調	栄養・ビタミン・塩類・酸素など質量のある物質の過不足 — 脚気・壞血病
3) エネルギーによる障害	ミトコンドリアの障害 構造の破壊
4) 毒物作用	タンパク質・排気ガス・毒物・薬品類の作用 — アレルギーとアナフィラキシー
5) 臓器移植の不適合	移植術にともなう組織免疫反応
6) リモーデリングと過労エネルギー摂取の不適(1,2,3の複合で起こる)	分化の障害 (重力・温熱・気圧・湿度・太陽光線・放射線・電磁波・音波・超音波) — 癌と奇形
7) 外傷 (エネルギーで起こる)	怪我(外力)

入れば脾臓炎か糖尿病になります。

脳に行けば脳炎になります。目に行けば網膜症、心臓に行けば心筋症になります。ですからすべて治し方は同じで良いのです。非常に簡単に時間の単位で治すことのできるケースもあります。

(スライド14参照)

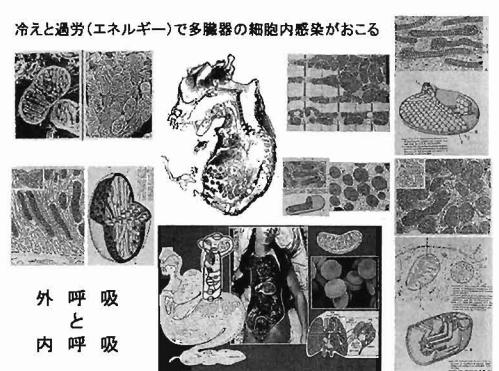
冷えと過労で多臓器の細胞内感染が起ります。

外呼吸と内呼吸の仲を取り持つのが血液です。外呼吸というのは肺までの呼吸で、内呼吸はミトコンドリアでの細胞呼吸です。ミトコンドリアは臓器によって形が違います。ただし、人体でこの研究をした人は一人もいません。全部ネズミです。人体でこんなことをしても、業績にならないのです。医学部で病

スライド13



スライド14



理学を研究する人はとにかくラットやマウスに癌を作るというような研究だけをしています。

(スライド15参照)

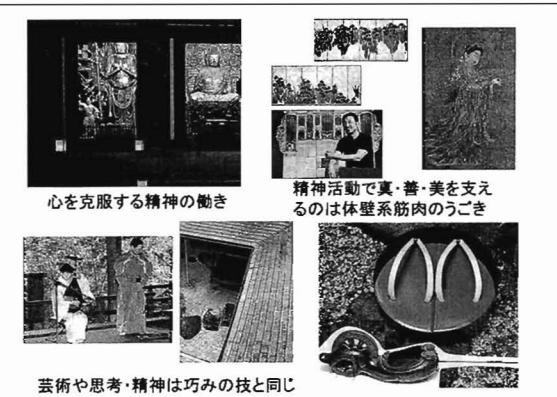
「内臓が生みだす心」先ほど言いましたように、心臓と肺を同時移植したところ、夢に出てきてドナーの名前までわかつてしまつた、本当に心がドナーの心に変わってしまったという実例があります。これは翻訳されて、日本では『記憶する心臓』として角川書店から出版されています。

こころというのは何かと言うと、生きる意欲でありまして、内臓筋肉のうごめきのことと、生命欲です。人間では仏教の言う財・名・色・食・睡の欲望になっています。そして、精神や考えは体壁系の脳と筋肉で考える

スライド15



スライド16



ものであります。より良く生きる、計算や芸術であります。感じて動くことで計算が始まるのです。心も考えも形も動きもすべては細胞の遺伝子の働きによって生ずるということであります。これが遺伝子発現です。

(スライド16参照)

こういう講演をよくしていましたら、主として学者なのですが、心というのはもっと上品なものだと、私の言うように財・名・色・食・睡というようなドロドロしたものではないと、芸術を愛する心が心ではないかと言う学者がかなりいました。しかしこれは間違っています。心というのは生きる意欲で、内臓筋肉の働きです。そして、茶道や宗教などというものはすべて体壁系筋肉のうごき、つまり巧みの技と同じです。四角いゲタを丸く作って、計測して削るというように、芸術にはすべて筋肉運動が関与します。それが精神の働きを作るわけです。こころと精神は微妙に違います。今はすべてをごちゃ混ぜにして、こころが脳にあると思って研究している脳の学者がたくさんいますが、これは大きな間違いです。

(スライド17参照)

脳、神経とは何でしょうか？ 脳というのは筋肉のシステムです。ですから「筋肉なく

スライド17



して神経なく、神経なくして筋肉はない」のです。

我々哺乳動物、脊椎動物の源はホヤなのですが、ホヤは高等植物の源でもあるのです。ホヤの根にはセルロースがあります。ですから我々もセルロースの遺伝子を持っているのです。そのセルロースの遺伝子はサメの昆布状の卵殻に受け継がれています。哺乳動物のイヌでも人間でも、怪我をして本当に綿が出てくる人が時々いますが、これはセルロースが出ているのです。眠っている遺伝子が誤作動するだけです。考えてみてください。セルロースというのはデンプンとほとんど構造式が同じなのですから、当たり前といえば当たり前なのです。ですからこれからは脳は筋肉と分けて考えずに、一体として考えなければならないのです。

(スライド18参照)

私はこの人工骨髄（造血器）と人工歯根というものをバイオメカニクスで開発しました。これは、動きで細胞の遺伝子の引き金を引くことによって、セメント芽細胞や骨髄造血巣、骨を未分化間葉細胞から作りだすことができるという方法です。つまり動物の動きで生ずる流体力学エネルギーが触媒の作用をして細胞遺伝子の引き金を引いて特殊細胞に分化誘導し、その結果これらの細胞性物質や細胞を

スライド18



作りだすのです。これによって、動物の動きで脊椎動物の進化が起こっている、同時に免疫システムが発生し、骨髄造血が発生することを解明したわけです。そして脊椎動物3つの謎（資料2参照）は、実は同じ生命現象の異なる側面であるに過ぎないということがわかったわけです。そうするとあとは、20世紀最大の謎である進化と、多細胞生命体が何故一細胞で生きる原生動物のように一個体として統一的行動を取ることができるのか=すべての臓器と器官の切っても切れない関連性の謎が漸くにして解けるということになるわけです。

(スライド19参照)

これで漸くにして「生命を過不足なく定義する」ことができます。20世紀にシュレーディンガーが分子生物学を作ったときも、エネルギーが欠落していて、「生命とは何か？」を定義していなかったのです。

生命の定義は、「エネルギーの渦がめぐるとともに個体のパーツ又は丸ごとをリモデリングし、新陳代謝して老化を克服するシステム」でありまして、生命体というのは「太陽や星のエネルギーの流れる力でめぐる水車や風車のようなもの」であります。これが途絶えれば瞬時たりとも高等生命体は存立できません。それを忘れるから、めちゃくちゃになるわけです。そしてエネルギーの渦がめぐるというのは太陽や月や地球の熱や光や重力エ

資料2

◎脊椎動物3つの謎

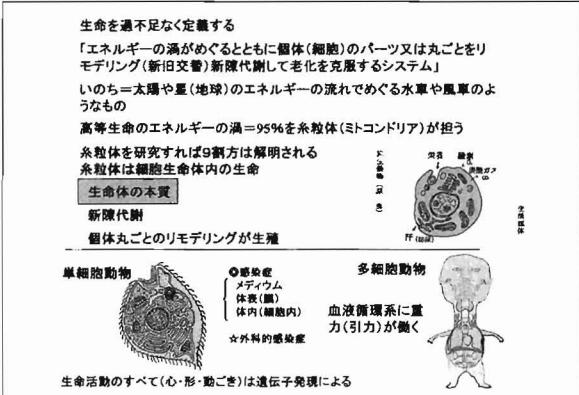
1. 進化がどうして起こるのか？
2. 免疫システム特に組織免疫系はどうなっているのか？
3. 内臓の造血の仕組みが高等動物ではどうして腸管から体壁系の骨髄腔に移動するのか？

エネルギーの流れのもとで高等生命個体の95%、ほぼ100%はそれぞれの細胞内のミトコンドリアが担っているということは、この生命体はミトコンドリアがダメになればその器官や臓器はおしまいになるのです。そのように考えれば、色々なことがわからなくわかります。

例えばアルツハイマーはアミロイドができるて脳がダメになります。これは脳の神経細胞のミトコンドリアが壊れることによってめちゃくちゃな物質、アミロイドができるだけなのです。ミトコンドリアが壊れても細胞内の大部分のパートが生きているから何か自動的に反応が起こるわけです。それがアミロイドということになります。ミトコンドリアがどうして死ぬかを考えれば、病気を治す手がかりが得られるわけです。

そして、単細胞動物と多細胞動物を比較すれば色々なことがわかります。多細胞動物はどうしてまとまった機能をすることができるのかということを深く考えると、細胞の中にあるミトコンドリアがホルモンやサイトカインを出して、血液を介して統御しているということがわかります。そしてこの多細胞動物の体に感染症が起るのはどういう状態かといふと、「メディウムの感染」と「表面の感染」と「細胞内感染」の3種類しかありません。それをこれに当てはめると、自ずから病気は解明できるということです。

スライド19



(スライド20参照)

これは「個体発生は系統発生を繰り返す」という、ヘッケルの図であります。ヘッケルはこういう克明な図を書いて非常に詳しく発表したのですが、彼は最後にキリスト教の神の世界とこの発生を調和させようとして無駄な努力をしました。これで生命科学の世界から消されたのです。20世紀にキリスト教の世界とこのような自然科学とを調和させようというのには無理な話です。

これ(資料右上:学名)がネコザメであります、これ(同:Human Embryo)がヒトの胎児です。パートは完全に一致するということは、ネコザメが我々の先祖であったということがわかります。ネコザメの幼生を見ると、このヒトの胎児とそっくりな形をしています。しかしヘッケルはその時ネコザメがこういう形をしているというのを知らなかったのです。

(スライド21参照)

これもネコザメなのですが、この形を対比すると、実は咀嚼器官というのはすべて呼吸の内臓筋肉なのです。サメの時代の呼吸筋肉で咀嚼をしているのです。

そして舌筋ですが、サメは舌が動きません。その中にある筋肉で鰓を開いています。この舌の筋肉と心臓の筋肉は同じ呼吸筋肉です。牛タンを食べるとわかりますが、牛タンはモ

スライド20



モ肉とは違います。タンは紛れもなく、心筋と同じ呼吸筋肉なのです。

そして、サメの心臓の周りに囲心腔という空洞がありますが、ここに哺乳動物だけ肺が入ります。そうすると、横隔膜ができるのです。哺乳動物だけがこうなります。爬虫類や鳥類はこの肺が囲心腔にできないで胸腺だけ囲心腔に入り、肺は腎臓に沿って腹腔まで伸びてくるという違いがあります。ですからサメが陸に上がったときすでに哺乳動物と鳥類、爬虫類は分岐していました。これで色々な謎が一気に解けてしまうわけあります。

(スライド22参照)

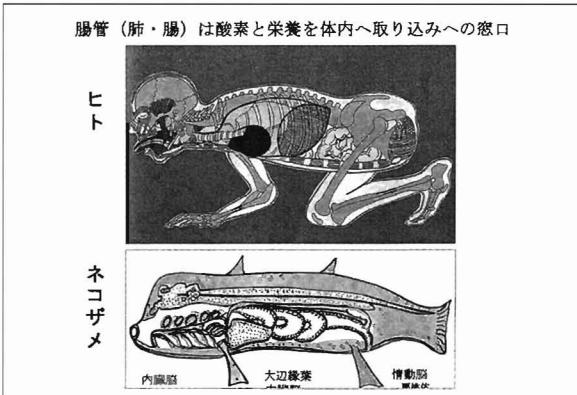
哺乳動物の定義は何かと言いますと、「やがて咀嚼システムを行うことになる吸啜（お乳を啜る）システムをもって生まれてくる仔」でありまして、授乳期間が種によって決まっています。人類は何歳が授乳期間でしょうか？これがドイツでわかったのが今から55年前です。哺乳動物の授乳期間は何と最も早くて2歳半、最も遅くて5歳です。福沢諭吉や昔の偉人は皆5歳までお乳を飲んでいたのです。これが当たり前なのです。

ドイツの研究でわかった事は、60年近く前の当時のアフリカの土人の子育てを参考にしたためです。当時のアフリカでは何もなかつたから猿やゴリラと同様に昔からの言い伝え

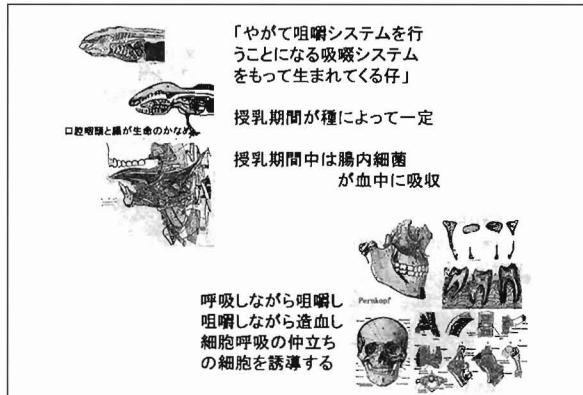
のとおり5歳まで母乳だけで育てていたわけです。早く離乳食をすると何が起こるかはあとで示しますが、大変な病気が起こります。日本中の子供が今それで全滅しているのです。12歳になって子供同士殺し合いをするというのも5ヶ月から始めた離乳食によるものです。哺乳動物の掟を犯すと大変なことになります。授乳期間中は腸内細菌が自動的に血中に吸収されます。これが乳児ボツリヌス症の事件で今から20年前にアメリカでわかったことです。しかし日本の医者はこれを知らないのです。小児科医が知らないから小児科が今全滅です。

そして我々の咀嚼器官は呼吸しながら咀嚼し、咀嚼しながら造血しています。頭では呼吸をしながら頭蓋骨で造血しています。他の部分では、成体になってからは全部関節でしか造血しません。頭蓋骨だけは全部が関節骨なのです。椎骨も関節骨ですから生涯にわたって造血をするのですが、実は頭蓋骨というのはたった一つの椎骨が頭部で特殊に発展したものなのです。ですからここで終生造血をします。そしてこの造血とは何かと言いますと、肺の外呼吸と細胞呼吸の仲立ちをするものであります。その血液細胞を誘導するのが咀嚼であり、呼吸であるわけです。ですから、噛まないで同じお米をお粥にして丸呑みにするのと、ご飯にしてよく噛んで食べるのとでは大きな差があるわけでありまして、

スライド21



スライド22



まったく力が湧いてこないというのはそういうところに源があるわけです。

(スライド23参照)

今脳科学が非常に盛んですが、脳には内臓脳というのがあります。その上に大脳皮質があります。そして内臓脳のことを大脳辺縁系と言いますが、実は大脳新皮質こそが辺縁系で、端から生えてきています。行き場がないからこの上に来ているだけなのです。

そして哺乳動物だけが極端にこれが発達していますが、サメにも大脳があるのです。サメに大脳がないと言う人がいるのですが、実は大脳があります。これはほとんどが内臓脳でできています。小脳よりも小さい。この内臓脳が非常に重要でありまして、内臓脳が生きている限り、心臓は止まりません。ということは、脳死ではないのです。脳死というのは人が決めた死です。脳死をヒトの死として生きた臓器を摘出する行為は自然法に従えば殺人罪に該当します。内臓の生きているうちにその人に心臓や肺を移植すれば、ドナーに心が変わってしまうのです。

内臓脳は男性の脳と女性の脳ではこんなに大きさが違います。何故でしょうか？ 先ほど言いましたように、脳は筋肉のシステムです。筋肉の大きさが男女で極端に違うわけですから、これは生殖系の筋肉の大きさの違い

を表しています。

(スライド24参照)

このように、女性の生殖系の筋肉は、男性に比べて極端に大きいです。そうすると当然内臓脳は大きくなるわけです。

(スライド25参照)

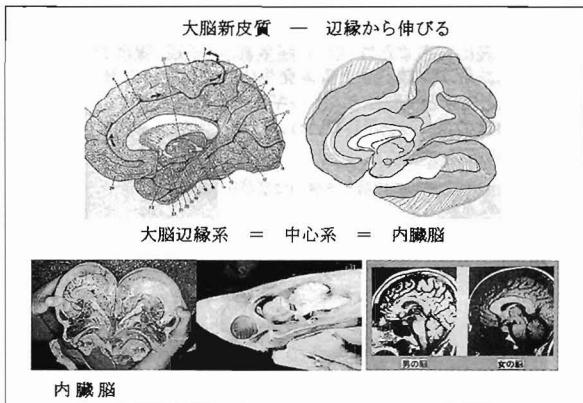
エネルギーで病気が起きます。ミトコンドリアが体の外からのエネルギーを直接受けて元気になったり、くたびれたりするのです。

動物は動くことが特徴ですが、動くことは非常にエネルギーが必要です。それがすべてステロイドホルモンでコントロールされています。

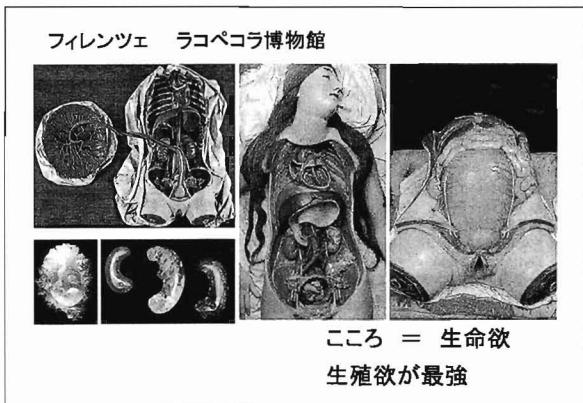
脳下垂体と副腎というのはエネルギーを直接摂取しますが、エネルギーのみならず、質量のある物質や細菌、ウイルスをキャッチして全身性に知らせるシステムです。エネルギーが体外から作用し、細菌や寄生体が体内に入ってくると、これらがセリエの言うストレッサーとなって作用しますと、全部この脳下垂体——副腎系がコントロールします。

ミトコンドリアというのは太古に寄生した微生物の一種ですから、核の遺伝子とミトコンドリアの遺伝子の共同作用で増殖します。ミトコンドリアがくたびれて増殖できなくなつたという状態が慢性疲労です。こうなつたら

スライド23



スライド24



命はおしまいです。どんなに休んでも疲れは取れません。ですからミトコンドリアに目覚めて、ミトコンドリアを大切にしなければいけません。今の日本の生活はミトコンドリアを完璧に痛めつけるように作用しています。

(スライド26参照)

『鍼とツボの科学』という本がありますが、喉が痛いときにふと思いついて、三里と手のツボに刺激を与えたピタッと喉が痛くなくなったと書かれています。

これは何を意味しているかと言いますと、実はサメの時代の手に相当する胸ビレと足に相当する尾ビレは、両方とも鰓のシステムなのです。これ(資料左下)は取り込みの鰓、つまり呼吸の鰓です。そして泌尿生殖器は鰓の排出のシステムです。これが腎臓です。哺乳動物では、このヒモのように長い筋肉のシステムである腎臓は、前のはうにグルグルっととぐろを巻いているだけなのです。そしてこの腎臓、泌尿生殖器は鰓の排出のシステムですから、足と手にツボがあって、鰓のなごりの喉と鼻に影響するのです。ですから、風邪をひいて調子の悪い人は手と足をたたいてカイロで温めます。カイロで温めるところは、うなじ、延髄のところ、背中の副腎、そして手と足です。そうするだけで鼻の通りが良くなります。そしてあとは緩やかな呼吸体操を

スライド25

エネルギーでも病気がおこる
Mitochondria外からのエネルギーを直接うける

H.Selye's Stress Theory

動物一動くことが特徴
食べる・呼吸・消化吸収・エネルギー代謝・リモデリング・睡眠
排出(生産物質・老廃物)

II
ストレスによって影響

質量のないエネルギー

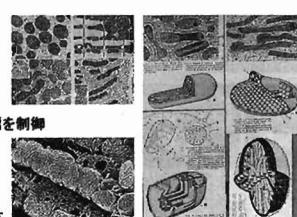
脳下垂体-副腎

ステロイドホルモン

Mineral Corticoid

Glyco Corticoid

⇒全細胞のミトコンドリアの代謝を制御



ミトコンドリア

太古に寄生した微生物

増殖は核の遺伝子による

ミトコンドリアの働きも核と糸粒体の遺伝子の発現による

することです。

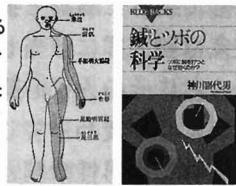
この先生は、鍼灸は「二階から目薬」のように頼りないので、ステロイドの効果は激烈だと言っているわけですが、そんなことはありません。ステロイドを使わなくとも、今のようにエネルギーを制御すればわけなく治せます。口呼吸をやめれば気管支喘息がパーエフェクトに治ります。ただし、冷たいものを飲んでいたら治りません。腸から入る黴菌でも喘息になります。

(スライド27参照)

この子は金属アレルギーです。この左側の歯に詰めている金属を外すと左の頬が反応して真っ赤になります。そして、同じ左側の背中に長期間にわたり大変な湿疹があったのが、外せば1週間できれいに治ってしまいます。

スライド26

免疫病で鍼灸治療が行われているのは、鼻炎、花粉症、気管支喘息、慢性関節リウマチなどです。
ステロイドの効果に比べると、鍼灸の効果は「二階から目薬」のように頼りなく思われます。



手と足は
鰓の一部

スライド27

経絡

体表に存在する外・中・内胚葉器官・組織・臓器の連繋部。系統発生と個体発生における臓器の発生と由来と相関性とエネルギーを含めたすべての物質の繋がりを示している。



内臓と皮膚のつながり

金属アレルギー

左の背中 左の頬



経絡というのは左は左、右は右であって、高等な体壁神経系のように錐体交叉をしない、原始体壁神経系の錐体外路系に近いつながりであるらしいということがこれでわかります。

(スライド28参照)

今から40年近く前の私の学位論文は、ミトコンドリアの変異発生に関する酵母の研究でありまして、この分子生物学研究で学位をとったのであります。

ミトコンドリアが生命体の中にある生命で、すべてをコントロールしているということを、最近、高等生命体の中での役割について解明することができました。40年前に行った研究では35年間はほとんど実際に応用して役立てるることはできなかったわけですが、倦まず^{たゆ}弛まず研究を続けてきた結果、最近になってようやくこれが生きてきたということです。

(スライド29参照)

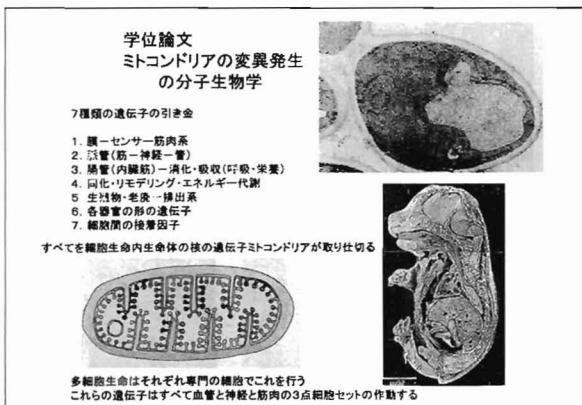
これはオーリングテストという方法です。この方法を開発した大村恵昭教授（ニューヨークの心臓血管研究所長）は、4月23日に私の研究会でも講演されますが、このオーリングテストというのは共鳴現象を利用して色々なつながりを見る方法でありますし、その理論的背景にはこの『電子スピンドル共鳴』や

『量子のからみあう宇宙』があって、エンタングルメントという最先端のサイエンスを我々の体で応用しているのです。

我々の体というのは水溶性のコロイドででています。水溶性コロイドということは、水でないと生命のエネルギーの渦はめぐりません。油が溶媒の生命は存在しません。生命はすべて水の中における電気現象なのです。それで共鳴現象が起こるのです。どこの文明国でも、古代人も使っているダウニングという方法があります。水脈を探したり水道の水が漏れたときなどに使う方法ですが、水が流れると電流streaming potentialが流れるのです。油が流れても電流は生じません。油は固体で砂のようなものだと摩擦すれば電流が生じますが、液体で電流が流れるのは水、水溶液だけです。これを利用して水脈を見つけるわけですが、このオーリングテストではこれと同じことをヒトの体の神經-筋肉システムを使って行うのです。非常に正確です。

この本（資料右下、「人間 この」）を書いたアレキシス・カレルは、臓器移植の原理と血管縫合術を開発してノーベル賞を受賞した方です。アメリカのロックフェラー研究所に在籍して受賞しましたが、フランスの外科医です。彼はルルドの泉に付き添いの医師として行って、死ぬ寸前と思われる人を泉の側まで出すべきかやめるべきかという議論をして、尼さんが「こ

スライド28



スライド29



の人はこのために来たのだから出しなさい」と言って出したら時間の単位で治ってしまったのを目の当たりに見て、それをフランスの外科学会に報告したら、外科学会から追放されて失意のうちにカナダに渡り、それからアメリカに行って5年後にノーベル賞を受賞しました。そしてここには「心や精神、信仰や靈というものは、すべてエネルギーとして実態があるものだ」と書かれていますが、20世紀に書かれた唯一の本です。エネルギー保存の法則に基づいて人間を解明した人です。この人は不幸なことに、第二次大戦でナチスに蹂躪されてドゴールが逃げた後の迷えるフランス人を救うべくフランスに渡り、「人間研究所」を作ってフランス人の面倒を見て、ナチスに協力した罪を問われ、敗戦後ドゴールから追放されました。ドゴールが亡命先から帰ってきて、逃げ場を失ったフランス国民のために尽力した人を追放して、ダメージを加えたのでした。

(スライド30参照)

お配りしたと思いますが、学士会会報に「健康は呼吸で決まる」という話が載っています。これは旧七帝大の同窓会の夕食会で私が呼吸の話をしたものであります。私の専門は呼吸ではないのですが、こういうところで話をしたわけあります。東京大学の医学部

では名誉教授でも夕食会で話す人は10年間で3人くらいです。

そういうところで呼吸について話をしましたら、早速この外交官の岡崎先生が、「こういう本を書いたけど…、同級生の東大教授に聞いても、何もわからない、こんな研究はするなと言われるだけだったけど、これを読んで初めて気功でどうして病気が治るかがわかった」と、手紙とともに送ってきました。

(スライド31参照)

そしてこれが気功です。今から10年近く前に東大にいた頃に、色々な病気が治せるようになったと言ったら気功の人が多く集まってきたました。患者を紹介しろと言うのです。そして「どれ、やってごらん」と言って写真を撮るのであります。30枚撮って4~5枚くらいがわずかに光っています。この程度の光の気功でも、男性の右側によくできるlipoma(脂肪腫)が呼吸法を続けると消えます。

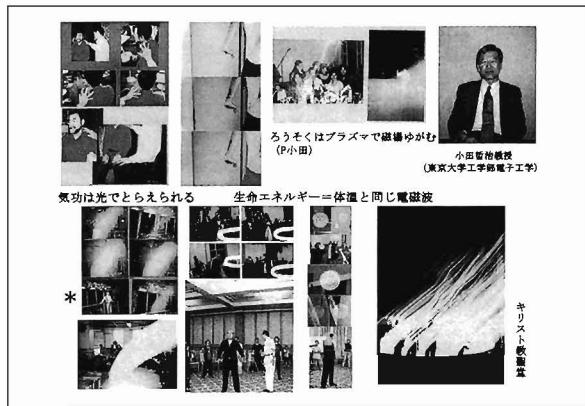
これがどうして効くかと言いますと、この光となる電磁波を患者に投入することによって副腎皮質ホルモンを活性化すると、それによって白血球が細胞膜の変化を見分けて、良性腫瘍細胞を壊してくれるのです。そのように解釈すると、すべてうまく理解されるわけです。

このように宗教現場でも気功でも光が発生

スライド30



スライド31



します。

これ(*)は私から出る気です。この人より100倍くらい強いです。しかしこんなものを使わないで太陽光線を使ったほうが1000倍強いです。肉眼で見えますから。

それでこれは何でしょうと東大の電子工学の小田教授に聞きましたら、ロウソクがプラズマで、磁場に合うと直角に曲がるから、これは磁場でしょうということでした。磁場を使って、これがまさに体温と同じ生命エネルギーです。これを投入すると疲れますから気功をする人はよく癌になったり早死にしたりします。太陽があるのですから太陽光線を使ったほうがいいです。この気功の力も大元はすべて太陽なのです。食物を同化して体内で気功エネルギーに変換して、そのエネルギーで病気を治すわけで、食物の大元はすべて太陽光線のエネルギーが物質化したものです。

(スライド32参照)

これ(資料左上)が人工太陽灯です。これは今からほぼ100年前にニールス・フィンゼンというデンマークの医者が開発して皮膚結核を治して、第3回のノーベル賞を受賞しました。これで、結核のサナトリウムというのができたのです。太陽光線で体を温めることによって治すという方法です。そして西洋では9割が

た結核がサナトリウムで治せる時代に、日本では不治の病でした。何故でしょう？ 結核は微熱が出て汗が出ます。それを日本では今でも冷やしています。冷やせば死んでしまいます。どんな免疫病も冷やせば死にます。ですから日本では不治の病だからと諦めて、医者に行くのをやめてスポーツをしたり山へ行ったりした人が皆生き残っています。医者にかかった人は全部死んでしまいました。日本の医学はとにかく今でも赤ちゃんでも冷やしますが、これは絶対にダメです。そしてどうしてこの太陽光線が効くかというと、このように呼吸蛋白質を励起起するのです。呼吸蛋白質にはヘモグロビンとミオグロビンとチトクロームがありますが、すべてヘム蛋白であります。最近アメリカでも特にhealing sunというのは注目されています。

これ(資料右下)は大村先生が作った赤い光の太陽光線の部分です。非常に治癒力があります。

(スライド33参照)

眼と歯の発生の組織図ですが、歯と眼は発生過程と組織図がすべて同じです。眼も歯も同じ感覚受容器です。歯は何を感知するでしょう？ 歯は質量のある物質を碎く、衝突を感じる役割を持ち、それに対して眼は電磁波を受ける役割です。つまり電磁波（エネルギー）と力学エネルギー（重力作用）とい

スライド32



スライド33

眼と歯の発生

宇宙の構成則 クイントエッセンス

1. 空間 space 壓力
2. 時間 time
3. 光 light(E.M.)
4. 物質(質量)–重力
s.mass 不可分 gravity
5. 温熱力学エネルギーがこれらのすべてを支配する

眼:電磁波
歯:衝突

う異質のものを我々の体は等価、まったく等しく扱っているということです。これから深く考えますと、色々なことがわかります。

(スライド34参照)

21世紀の今日に至り、西洋医学がどうして壁にぶち当たっているかというと、重力作用（力学エネルギー）を無視しているからです。重力作用が蒸発しているのです。

(スライド35参照)

そして「自己・非自己の免疫論」では、キリスト教やアンチクリストなどを持ち出してきて、こんな文学の遊びをしているのです。それで病気の人々はめちゃくちゃに痛めつけられているのです。

これ(資料左)はフィレンツェ大学の、動物学科の博物館にある梅毒にかかったキリストの解剖模型、蝸人形です。200年前から飾られています。西洋にもさめた人がいたのです。これはフィレンツェのメディチ家の当主が梅毒にかかって、悔し紛れにズンボという破戒僧に作らせたのですが、キリスト教さえ持ち出せばすべてフリーパスという時代はもう終わりました。こんなことをしていたら、病気は治せません。

スライド34



基督教は重力作用が蒸発している



(スライド36参照)

どうして冷たいものがいけないのでしょう？ 冷や酒というのは、つい近頃までは日本ではやくざと渡世人のものと決まっていたのです。冷や酒を飲むと黴菌が止め処なく腸から入り、脳に入って脳炎を起こします。それでやくざは怒りっぽく短絡的になっていたわけです。それが今では日本中が冷や酒をあおっているのが問題なのです。

また、子供にアイスクリームを食べさせてはいけません。脳炎になります。今、脳炎が頻発しています。そして低体温がどうしていけないかということが学術的にわかったのがこの脳蘇生術です。3℃下げて手術が終わって平熱に戻すと、全員死んでしまいます。腸の黴菌が止め処なくバイエル板のM細胞から白血球を介して血液に入れます。1℃下がる

スライド35



スライド36

低体温療法⇒平熱に戻すと全員死亡

- 口呼吸
言語の習得による
人類の構造欠陥
- 丸呑み
- アイスクリームと冷や酒
=やくざと渡世人
- 寝(骨休め)不足
- うらなり(日光不足)



腸洗浄してから手術すると生還

と白血球はまったく貪食しなくなるのです。ですから平熱を常時37℃に保ち、日頃から太陽光線に当たらなくともダメなのです。

(スライド37参照)

この進化の過程で、高等動物はすべて太陽光線に当たってやけどをしないと、先ほど言いましたように、ヘム蛋白が励起しないで生き残れないので。やけどをしたものだけが生き残る、ですから赤ん坊からイヌやネコに至るまで皆、冷たいものが大好きです。しかし冷たいものに溺れれば必ず滅びの道が待っています。

(スライド38参照)

これが腸から入った黴菌がどのように体を汚染するか、あるいは口呼吸から入った黴菌

がどのように白血球に乗って体にばらまかれるかということを示しています。

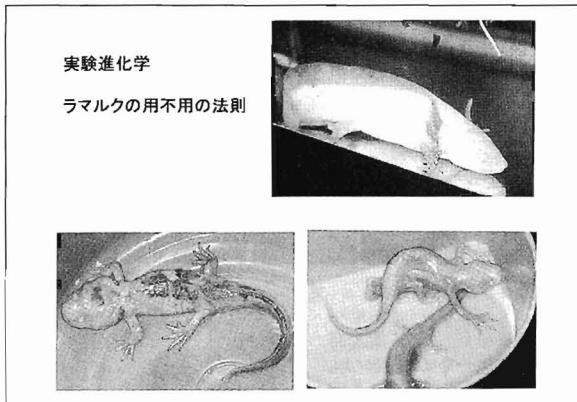
(スライド39参照)

「治療的診断」というのがあります、原因と思われる事象を除いて治ればそれが原因であるということがわかるわけで、このようにして検証していくと、治ることがエビデンスとして、完璧に免疫病を治すことができます。

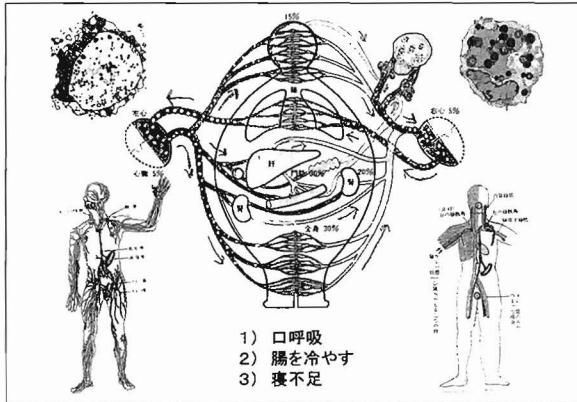
(スライド40参照)

これが喉の部分でありまして、喉には扁桃腺が5種類あります。これがそれぞれ、脳下垂体、副腎、心臓や甲状腺や腎臓につながっているのです。ですから、口蓋扁桃がやられれば、腎臓が高率にやられます。すべて黴菌かウィルスです。腎臓病も黴菌が原因です。

スライド37



スライド38



スライド39

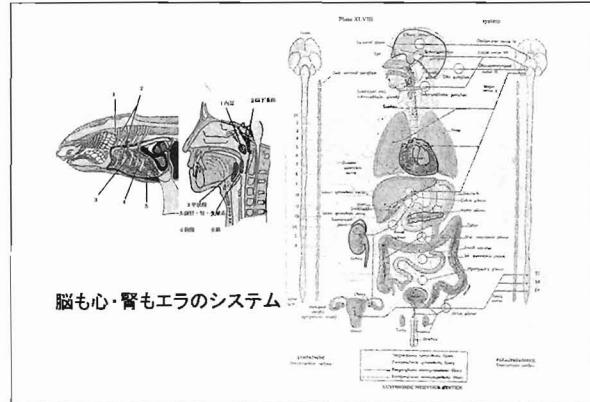
大人も子供もわけの
わからない免疫病は
Intractable Immune
Diseases

腸内常在菌の不顯性
の細胞内感染症

Diagnosis ex Juvan'tibus
治療的診断
原因と思われる事象を除いて
治ればこれを原因因子と考える

Evidence Based
Medicine
検証にもとづく医療
治ることがエビデンス

スライド40



(スライド41参照)

寝相が大切です。こういうふうに横向きに寝ているだけで、重力作用で歯がダメになります。そして、下側の腕が腱鞘炎になって、下側の脚が70歳になると大腿骨骨折を起こします。そして膝は上側が痛くなり、腰も上側が痛くなります。

平らな所にふわふわ枕で真上を向いて寝ないと、永続的に健康を保つことができません。

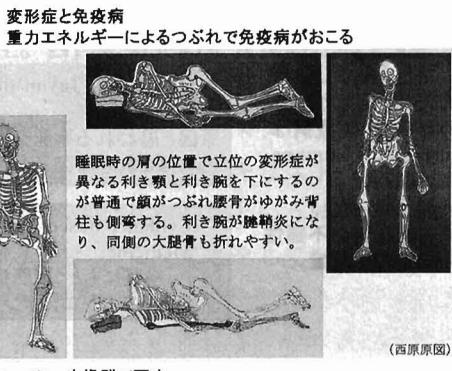
(スライド42参照)

口で息をしているだけで、こんなふうになってしまいます。

(スライド43参照)

姿勢悪く仕事をしていると、体中曲がって变形症と酸素不足で顔が黒ずんでしまいます。

スライド41



スライド42



これは呼吸体操をしていくと、2～3カ月でスパッと治ってしまいます。

喘息とアトピーも、変形症があれば起ります。それを治すと治ってしまいます。

(スライド44参照)

それにはこの鼻を高めるデバイスやふわふわ枕や、こういうものが一式必要で、美呼吸体操が必要です。

(スライド45参照)

この人もこのように良くなります。ついでに歯形を治すと、きれいに治ってしまうということです。

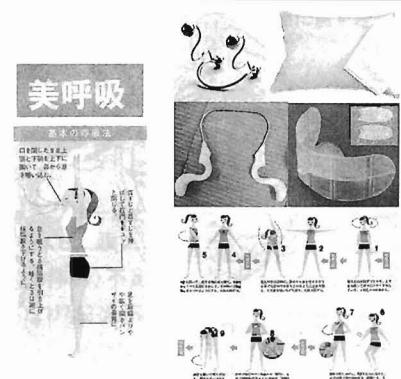
(スライド46参照)

抗核抗体が高い人も、肌がブツブツだらけ

スライド43



スライド44

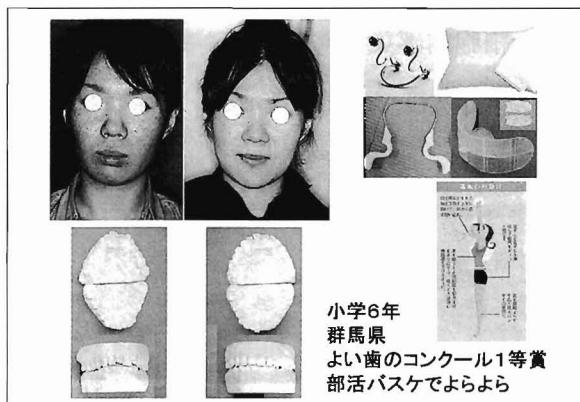


の人も、キレイに治ってしまいます。ページェト病の人も、口呼吸をやめるだけで1カ月で完治し、抗核抗体はなくなります。これは、細胞内感染している細胞に抗体ができ、それに対して白血球が攻撃をするだけですから、その口呼吸をやめて冷たいものをやめれば黴菌が入ってこないということで治ってしまいます。

(スライド47参照)

ステロイドホルモンと抗生物質です。ステロイドホルモンを作るのは性腺や副腎のミトコンドリアで、その標的器官は全身の細胞内のミトコンドリアです。抗生物質は黴菌を殺すとともにミトコンドリアを働かさせなくします。

スライド45



スライド46



(スライド48参照)

動脈硬化も、黴菌が関与しているということです。ですから冷たいものを飲んだ人は元気で健康でも、その人の血液を輸血すると、弱っている患者は輸血で死んでしまいます。

抗生物質の副作用で意識を失うというのは、抗生物質によって脳のミトコンドリアの機能が停止してしまって気絶するのです。

(スライド49参照)

ビフィズス因子だけは、インフルエンザの予防にも効きますし、すべての腸内細菌の具合を良くします。例えば最近できた歯磨き剤ですが、どうしようもない歯周病が良くなります。ですからビフィズス因子をよく服用することが重要です。

スライド47

ステロイドホルモンと抗生物質
ステロイドホルモン
ミトコンドリアが作る
標的器官はミトコンドリア
細菌の有効な抗生物質はすべてミトコンドリアの機能をつぶす

スライド48



(スライド50参照)

『感染症の事典』や『微生物学』、『細胞紳士録』（藤田恒夫著）に、パイエル板などから黴菌が入っていくシステムがあるということが載っています。

(スライド51参照)

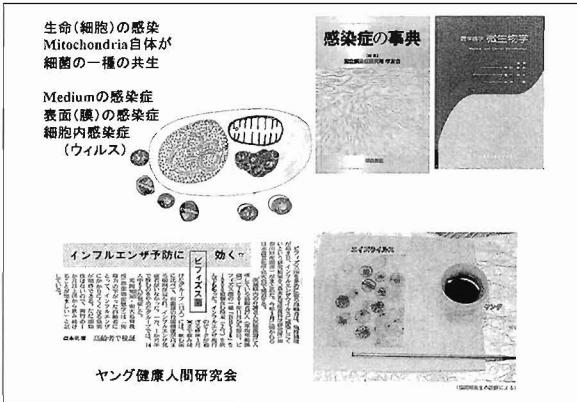
これは黴菌を抱えた白血球や組織ですが、このようにいたるところに黴菌が入っているのです。黴菌が電子顕微鏡で捕まえられるケースは非常に少ないです。まったくわからないでミトコンドリアが変形するケースが非常に多いです。しかし黴菌が入るとミトコンドリアの機能は間違いなくダメになります。クラミジアジッタシというのは、鳥のオウムやインコに感染しているので、これを飼うと空気感染によってリウマチになります。やた

らに鳥は飼わないほうがいいです。これは性感染症のクラミジアです。これも空気感染します。咳で感染して肺炎になりますから、子供にもうつります。

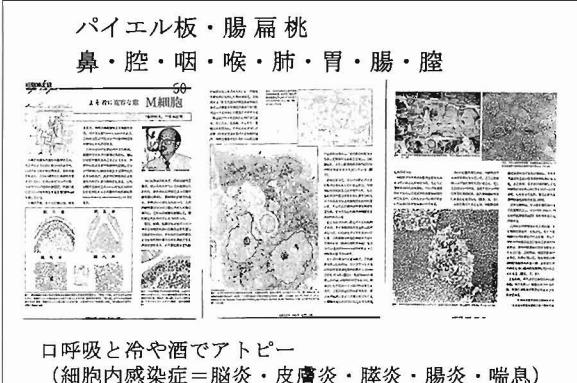
(スライド52参照)

リウマチの白血球除去療法も、つまりは黴菌を抱えた白血球を布でこして戻すというようなことをしているのです。こんなことをしないで鼻呼吸にして冷たいものを一切やめて骨休めしていると、一晩で1兆個の細胞がリモデリングしますから、2カ月経つとほとんど黴菌が抜けてしまうのです。ただし、鼻呼吸にしない限り止め処なく黴菌が入ってきますからダメです。冷たい果物でも食べるとスッと入ってしまいますから、全部42℃にするのです。

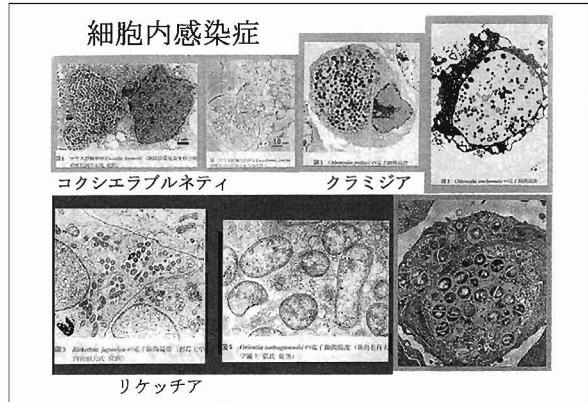
スライド49



スライド50



スライド51



スライド52

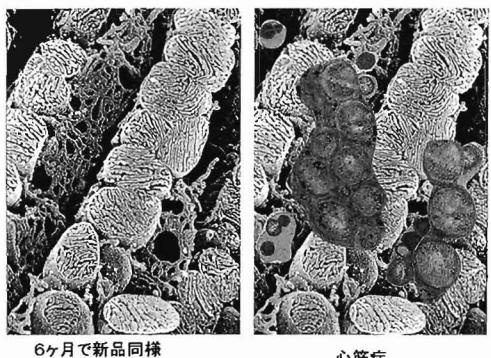


(スライド53参照)

これが心臓の中に入っている黴菌です。これは口で息をしているだけでこういうふうに入ってきます。激しい運動をすると、ちょうどシアンを飲んだときのように、喉から入る空気の好きな黴菌が酸素を横取りして死んでしまうのです。そこにいくら酸素を投与しても、細胞膜の中ですから入っていかないので。それで医者が大勢いる中で死んでしまうのです。

これを治すのは簡単です。心臓の上にカイロを貼って鼻呼吸にして、冷たいものを一切やめて、すべてのビタミンとミネラルと質の良いブドウ糖のようなものと、緩やかな呼吸体操をして6ヶ月すると、全部この黴菌が抜けて、新品同様の肺と心臓になります。

スライド53



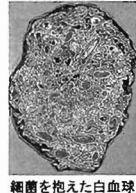
6ヶ月で新品同様
リモデリング3回

心筋症

スライド54

エネルギー代謝 細胞呼吸の障害

1. 体外からの不適エネルギー
2. ミネラル・ビタミン・糖・アミノ酸・脂質の不足と毒物の作用
3. 細胞内感染症



細胞を抱えた白血球

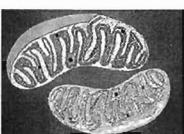
わけの分らない免疫病

ミトコンドリアの障害

- A. 体外から作用するエネルギー
- 1) 冷え — 低体温
 - 2) 過熱 — 熱中症
 - 3) 気圧 — 高山病、低気圧
 - 4) 重力 — 骨休め不足 — 造血
 - 5) 温度、波、光

B. 栄養不足

C. 器官・組織の細胞内感染症



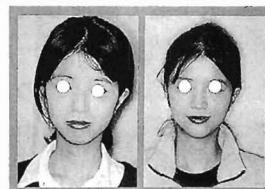
(スライド54参照)

エネルギー代謝、細胞呼吸の障害と、わけのわからない免疫病によって起こる病気、あるいはミトコンドリア障害は、まったく同じです。ということは、ミトコンドリアを障害することでわけのわからない免疫病が起きているということです。

(スライド55参照)

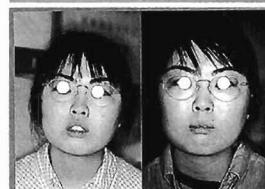
これは潰瘍性大腸炎の人です。今言ったような方法で完治します。ステロイドをやめて減量して完璧に治ります。1ヶ月でわけなく完治します。口呼吸している限りダメです。冷たい水はもちろん、常温の水でもダメです。常温の水は夏で24°C、体温との差が10°Cあります。腸温は37°Cより1°Cでも低くなるとダメなのです。

スライド55



潰瘍性大腸炎

完治



潰瘍性大腸炎

完治

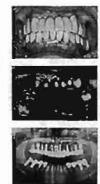
スライド56

間質性肺炎

関節痛



人工歯根療法
=哺乳動物の釘植歯と同じ



インプラントは爬虫類のシステムで必ず破断する

喘息



咀嚼器官は呼吸器の一部
(哺乳類のみ)

完治

(スライド56参照)

間質性肺炎も劇的に治ります。そのうえ人工歯根療法をすると65歳でこんなに若返ってしまいます。

(スライド57参照)

これも人工歯根療法を行った方々です。

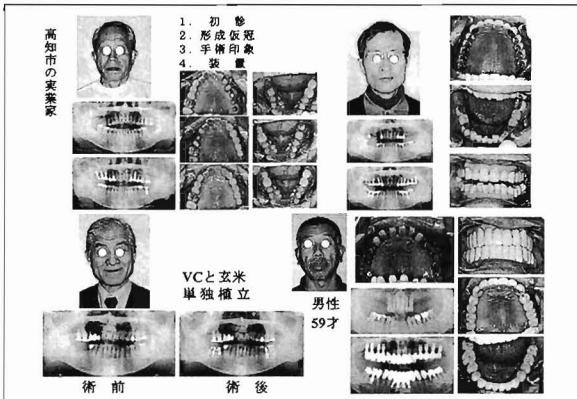
(スライド58参照)

これはリウマチ、頸関節症、体調不良の方です。すべて完治しました。この下のリウマチの方は大阪から来た方ですが、歯が悪いとどうにもしようがないのです。噛めないだけでめちゃくちゃになります。その場で噛めるようにするだけでリウマチまで良くなってしまいます。温めることと、鼻呼吸にして噛めるようにするだけで劇的に良くなります。

(スライド59参照)

これは東洋医学会で講演した後で来院した内科の医師です。腫瘍マーカーが高くて色々と調べても癌がわからないとのことで、採血して顕微鏡で見ると、血液の中が黒菌だらけです。冷たい水を2リットル飲んで、玄米を食べているそうです。玄米はダメです。玄米にはアブシジン酸とフィチン酸というのが入っていて猛毒ですから、血液の中が黒菌だらけになります。

スライド57



この下の方は京都から来た外科医で、20年間病気だらけでした。このように肺にひどい病巣を抱えていると癌になります。手術室という寒いところにいるから治らないのです。そしてこの肺や腸から入る黒菌で皮膚炎が起きています。これを治せば完治するわけあります。治し方を教えれば医者ですから自分で治せるのです。

(スライド60参照)

口呼吸で色が真っ白で、体中黒菌だらけ反応しない人が、ある日突然ストレスで体中こうなります。これもわけなく治せるのですが、低体温をきちんと治さない限り、本式には治らないのです。

この下の方は失明して13年経った方ですが、見るとアトピーだらけですから、すぐにアト

スライド58



スライド59



ピーが網膜に起こったのだとわかります。無茶をしない限りこんなことは起こりません。この人は口呼吸で、大学時代にアメフトとラグビーをして、社会人になって3年目に車を運転していて、突然信号が見えなくなって失明に気付きましたということでした。これもまじめにやればアトピーは法則性をもって1カ月で治ります。2~3カ月すると「目もうっすらと見えて、色までわかるようになりました」と、視力も回復してくるわけです。

(スライド61参照)

これはじんましんが脳に起こって気絶した方です。これも鼻呼吸にしたら気絶しなくなりました。こんなふぬけの顔でやって来て、トレーニングをするとこのように精悍な顔つきになりました。

スライド60



スライド61



(スライド62参照)

この子も同じアトピーで、真っ黒でクラスで一番小さかった小学6年生の子が、5カ月後に背も伸びて中学生のようになります。アトピーも1カ月でこのように治ります。

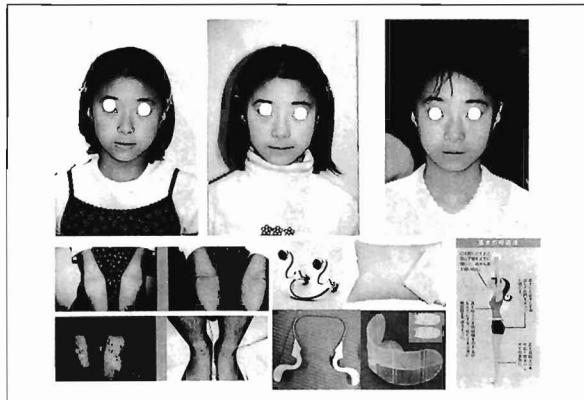
(スライド63参照)

この方は線維筋痛症ですが、ミトコンドリア脳筋症と同じで痛い痛いと言って半分目見えなくなってしまって階段をまったく上がれなかつた方ですが、今は歩いて3階まで登れるようになりました。

(スライド64参照)

これはマクロビオテック療法で玄米ばかり食べていて、家中病氣の方々です。14歳になつてもまだ初潮がありませんというような

スライド62



スライド63



状態でした。玄米にはアブシジン酸とフィチン酸というミトコンドリア毒が入っていて、それでやられてしまうわけです。

(スライド65参照)

脊髄小脳変性症の方々です。こんな小さい子が歩けない、立てない、字が書けないといふのです。その原因は、アイスクリームと口呼吸です。脳炎を起こし、脳炎のうち小脳がやられるのです。筋肉と脳に黴菌がたくさん入ってしまうのです。それを排除すると劇的に良くなります。

震えもわけなく止まります。小児科はこの震えを痙攣と思っているのですが、これは痙攣ではなくて小脳がやられてこうなっているだけですから、抗痙攣剤をやめて、鼻呼吸にして、体温を37~38℃にするだけで良いわけ

です。

(スライド66参照)

これは進行性筋萎縮性側索硬化症ですが、これも同じです。冷たいものの中毒で体中黴菌だらけになって、脳・脊髄神経と筋肉が同時に汚染されています。劇的に良くなります。

(スライド67参照)

この19歳の女性は急性腎炎の方です。腎臓(IgA腎症)も本当に原因は口呼吸と冷中毒で喉と腸内の黴菌が白血球に運ばれて腎臓が感染しているだけなのです。

(スライド68・69参照)

この8歳の子も医科大学に1カ月入院して尿がこんな状態で私のところへ来ました。こ

スライド64



スライド65



スライド66

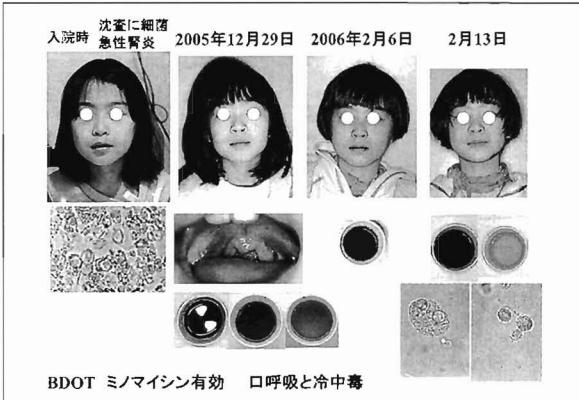


スライド67



んな状態では死んでしまいますから、その場で温めるとその場でこのように良くなるのです。つまり今は医療機関は病気を治すところではなくて、病気をもとにしてお金を取る手段にしていますから、入院中、お風呂を全廃して全員シャワーにしています。毎日シャワーを浴びると、冷えて腎炎が急に悪化して尿が黒くなるのです。こうして悪くしてからステロイドパルス療法に持ち込むのです。温めるだけでこのように尿はきれいになります。この子の沈査を取ると、白血球の中に生きた黴菌が泳いでいます。本当に黴菌なのです。そしてオーリングテストで見ると左の腎臓だけしか悪くない、そこに本当に黴菌が巣くっていますから、抗生素で良くなるのです。しかし巣くった黴菌はなかなか治らないですから、やはり3カ月や4カ月、薬をやめて、

スライド68



スライド69



安静にして温めないといけないわけです。もちろん鼻呼吸にしなければいけません。口呼吸ができないようにすると、初めて安定します。

(スライド70参照)

喘息もこのようにおしゃぶりを続けるだけで本当に簡単に治せます。

(スライド71参照)

再生不良性貧血の方ですが、口呼吸で大変なことが起こります。それもこれで完治します。

黴菌が目に行きますとブドウ膜炎になりますが、鼻呼吸にして1カ月で完治します。

スライド70



スライド71



(スライド72参照)

このように、さまざまな臓器に白血球が黴菌を抱えて白血球が運び屋となって黴菌をばらまくのです。ですから黴菌の入り口のもとを断って、温めて、循環を良くする漢方薬をのめば、鬼に金棒というわけです。

(スライド73参照)

右耳だけが悪くなります。

この上の方は右の耳の好酸球性中耳炎で耳鼻科医の治せなかつたのが、体を温めてビフィズス因子を飲ませて、ビフィズス因子で耳を洗うだけで治ります。

この下の方は右目が失明しています。口呼吸もしないし、冷たいものも一切飲まないと言います。実は歯周病（矢印）で失明しました。こんなものはわけなく治せます。この歯

の隙き間を細い針金でつなぐだけで黴菌が血中を巡らなくなりますから、すぐに治ります。

(スライド74参照)

リンパ系はこのようになっていて、黴菌を抱えた白血球が血液の中心（主流）を通ります。そうすると、右の脳と右の手や腕だけがやられます。軽症の場合は右目、右耳、右腕がやられます。

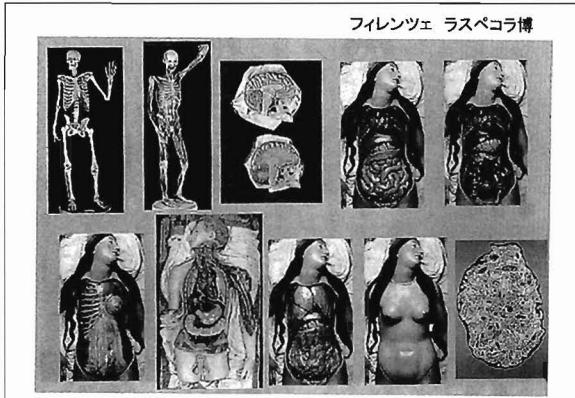
(スライド75参照)

このように右の手の爪だけが腐ったようになっていますが、これはすべて腸の黴菌なのです。

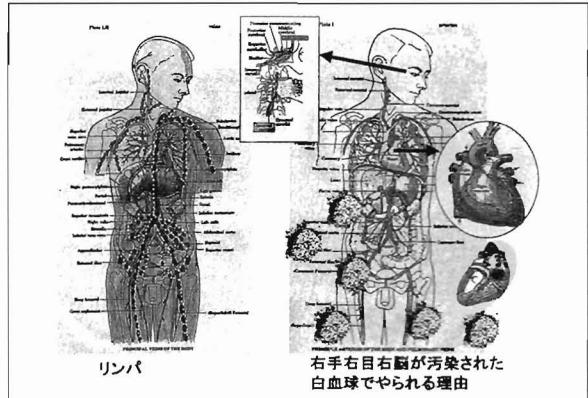
(スライド76参照)

これは「エンテロウイルス71型感染症の現

スライド72



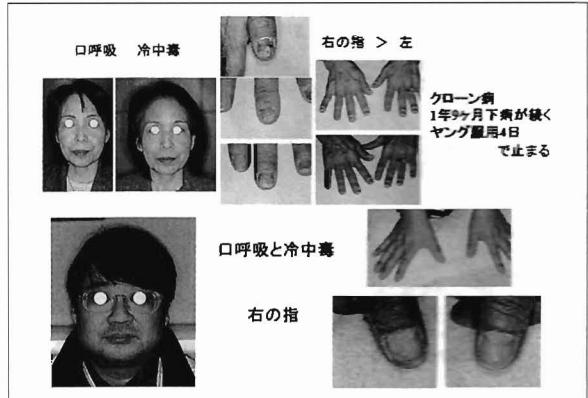
スライド74



スライド73



スライド75



もの、キムチや明太子、タバスコなどをたくさん食べると、黴菌が白血球に抱えられて、胎盤を通過して、赤ちゃんがお母さんの腸の黴菌で汚染されてしまうのです。そうするとこのような状態になります。

ロンドンにて、たまに真っ赤な子がいます。親の顔を見たいと顔を見ると必ず母親は日本人です。ヨーロッパ人は冷たいものをガブ飲みするなどということは絶対にしません。日本では医者が妊婦につわりの時に冷たいものをガブ飲みさせるのです。そういう医学常識に反することをさせるからいけないです。

赤ちゃんは、冷たく育てては絶対にダメです。赤ちゃんの体温は37度5分です。日本では37度5分あると熱でダメだと言いますが、そんなバカなことをしてはダメです。赤ちゃんと哺乳動物の冬眠する動物だけにブラウンファットというミトコンドリアがぎっしり詰まった脂肪があるのです。赤ちゃんは1時間に約1億個の細胞が分裂しているので、体温が必要なのです。そのために熱を作るシステムがあるにも拘らず、日本は冷やしているからダメなのです。

(スライド80参照)

お母さんとお父さんがひどい口呼吸の場合、その子供は生まれながらにして口呼吸で生まれてきます。これがラマルクの用不用の法則

スライド79



です。つまり、腹の中でせっせと羊水を口呼吸して吸うような練習をしてしまうのです。ですから日本では今はほとんどが口呼吸で、子供は全滅です。

(スライド81参照)

これは、お母さんが緑内障と潰瘍性大腸炎と皮膚湿疹の3つの病気を抱えていて、そのうえ玄米を食べていたのです。そうすると母乳でこのような皮膚炎になってしまいます。玄米をやめさせただけでこの程度になります。そしてお母さんの潰瘍性大腸炎と緑内障はすべて腸の黴菌で起こっていますから、鼻呼吸にして冷たいものを一切やめて、膀胱洗浄までさせると、30年間腸の黴菌が巡っていたのが見事にこうなり母子ともに完治しました。

最終段階でこんな手になりましたけれども、

スライド80



スライド81



海水浴に行って太陽に当たったら1日できれいになりましたと言って、その辺にいる子よりももっとピカピカになりました。

(スライド82参照)

ゴムがきつすぎても赤ちゃんは緑便となり病気になります。この下のクローン病の15歳の子も良くなつたのですが、なかなか治らないのでおかしいなと思って、トレーニングウェアのゴムがきつすぎたのでゴムをぐっと緩めたら、緩めたとたんに貧血を起こして気持ち悪くなつてしましました。

日本の洋服は今中国と日本で作っていますが、日本の産業界ではゴムを少し短くすると膨大な利益が出るといってどんどん短くしていったために、はけば必ず病気になるような服を作っています。これは大人も子供も同じ

スライド82



スライド83



で、とにかくきついものを着せられています。そして洋服や下着のような大事なものに日本政府は安全基準を設けていないのです。こんなデタラメな国は他にはあまりありません。

(スライド83参照)

自閉症も脳炎です。自閉症も実は脳に入った微生物なのです。ですからこの上の子は口で息をしていると、脳炎が起こって一言も話せなくなっていたのです。おしゃぶりと食べ方、呼吸法、話し方と体操を教えると2~3カ月で普通の子になります。

この下の双子も2歳7カ月で大人の食べ物を細切れに食べさせていると、ただただ泣くだけで何もわからない子になっていました。それで2歳7カ月でこの哺乳瓶で42℃のミルクを飲ませて、「赤ちゃんのやり直しができなかったらこの子の一生は諦めてください」と言いましたらはじめにやりまして、1~2週間でものすごく聞き分けのいい子になりました。言葉は二言しかしゃべれないですが、全部理解してまったく泣かない子になりました。そのくらい、変なものを食べさせると脳炎で悲劇的なことになります。

(スライド84参照)

そのまま大きくなってしまうとこの人は脳炎で目の焦点が合わないので。ところがお

スライド84



しゃぶりをするとすぐに焦点が合ってきます。この下の人も、トレーニングをするだけですごく普通の子になってしまいます。東大病院の小児科に24歳でかかっていて、3時間待たされて順がきたら「変わりないね、はい次！」と言って、日本では一切トレーニングなしです。これでは治るわけがないのです。食べ方、呼吸法を教えればわざなく治すことができます。

(スライド85参照)

離乳食てんかんと喘息の子供です。実は生えびや刺身を早くに食べさせるとてんかんになります。これも脳内細菌による脳炎の一種です。そしてこの子はおしゃぶりと、体を温めて、刺身や肉類を一切やめて植物性に変えようと、完璧に治ります。脳脊髄関門というものは赤血球と血小板が通れないだけで白血球はフリーパスですから、大人の脳炎も同じです。抗痙攣剤をやめて、体を温めて鼻呼吸にして、肉類を食べさせなければ、完璧に治せます。

(スライド86参照)

これも同じです。ウイルス性の脳炎のあとでてんかんも完全に治せます。完治します。

これからは、医者でなくても、あるいは一

スライド85



人の医者で、すべての科を、目も鼻も耳も肺も脳も、微生物を制御することによって治すことができます。ただし、あまり病気が進みすぎたものはダメです。あまりひどくなつたものは回復不能になります。それから癌も実は何十種類かのウイルスか微生物の巣くった病変と言ることができます。

(スライド87参照)

阿呆と脳炎の予防法は、これでいいわけです。これを日本の医者は未だに完全に追放しているのです。これを5歳まで使えば完璧に利口な子になります。このように人類も哺乳動物の一員ですから、哺乳動物の生命のきまりを守れば、大人も若者も赤ちゃんも高齢者も健康な生活を送ることができます。

ご清聴ありがとうございました。

スライド86



スライド87

